

1. 日 時 平成26年8月29日(金) 15:00～16:30
2. 開催場所 市役所本庁舎2階 第2委員会室
3. 出席委員名(敬称略)

役職	氏名	出欠
委員(東北福祉大学教授)	阿部 一彦	○
委員(宮城教育大学准教授)	木下 英俊	×
委員(宮城学院大学教授)	白木 悦子	○
委員(仙台大学教授)	仲野 隆士	○
委員(東北大学准教授)	藤本 敏彦	○
委員(東北学院大学教授)	松原 悟	○
委員(仙台市スポーツ少年団本部長)	安中 俊作	○
委員(YOKO、INADA スポーツ射撃クラブ)	稲田 容子	×
委員(仙台市体育協会理事長)	渋谷 光保	○
委員(仙台市レクリエーション協会事務局長)	黒田スミ子	○
委員(みやぎ障害者陸上競技協会理事)	中嶋嘉津子	○
委員(仙台市学区民体育振興会理事)	久水 敏司	○
委員(仙台市スポーツ推進委員協議会会長)	平塚 和彦	○
委員(仙台市議会議員)	鈴木 勇治	×
委員(仙台市中学校体育連盟会長)	朝間 康子	○
委員(仙台市小学校教育研究会体育部会会長)	郡山 孝幸	○
委員(ベガルタボランティアクラブ総務部長)	加藤 茂子	○
委員(東北電力㈱広報・地域交流部副部長)	二階堂宏樹	○
委員(NPO 法人キューオーエル理事長)	横山 英子	○

4. 説明に出席した者の職・氏名

市民局長	渡邊 晃
文化スポーツ部参事兼課長	佐藤 康行
スポーツ振興課主幹兼事業係長	大浦 健志
スポーツ振興課主任	早坂 正宏
スポーツ振興課主事	佐藤 沙織

## 5. 会議の経過

(1) 開 会

(2) 会長挨拶

(3) 局長挨拶

(事務局紹介：大浦主幹)

(4) 議事及び報告事項の内容

議事進行役：平塚会長

会議録署名委員の指名：郡山委員

**平塚会長** 報告事項について事務局より説明願う。

**事務局** それでは、ご報告させていただきます。

〔事務局報告〕・・・報告資料1～2

(1) 平成26年度主要事業について

(2) 平成26年度補助金の交付について

**平塚会長** ただいまの報告について、ご意見、ご質問等はあるか。

〔意見なし〕

**平塚会長** 続いて本日の議事について、事務局より説明願う。

**事務局** 本日審議いただくスポーツ賞の選考については、昨年度12月に開催した審議会の最後に、事務局より提案させていただいた事項である。

スポーツ賞選考にあたり、審議会にてお諮りする前の段階で、事務局として各競技団体や学校等からの推薦のとりまとめを行っている。

最近では、オリンピックやパラリンピック、世界選手権以外の国際大会も多く開催されており、多くの選手がそういった大会へ参加するようになってきている。スポーツ賞の推薦についても、そういった国際大会での成績により推薦されるケースが特に増えてきていると感じる。

課題として、「仙台市スポーツ賞事務取扱要領」、「仙台市スポーツ賞運用細則」の中で、栄光賞に該当する国際大会はオリンピックや世界選手権等での成績について顕彰基準が定められており、その他の国際大会については、競技によってはそれと同等ではなくとも準ずるような国際大会も多くある。それらについて推薦された場合には、推薦者や競技者から聞き取った大会規模や参加者のレベルなどの情報をもとに栄光賞か否かをこの審議会の場で諮っているところ。

このように、推薦する側がそのような準ずるような大会であるとして推薦すれば審議いただくこととなるが、団体によっては、要領や細則から判断し顕彰対象外であるとして、推薦されないケースも考えられる。

このような状況から、要領や細則に明記されているオリンピックや世界選手権、ワールドカップといった以外の国際大会であっても、それと準ずると判断されるようであれば成績により、栄光賞や優秀賞といった賞の顕彰対象とし、その旨を明記することにより推薦する側にも分かるように、関係要領等の改正が必要であると考え。

資料4および5-1につきましては、事務局として提案するそれぞれの改正案であり、下線部分が今回追記した箇所である。

今回の基準の見直しとは若干ずれるが、栄光賞に該当する国際大会の中の「アジアオリンピック評議会が主催する大会」について、近年新たに別枠として開催されてきている同じような位置づけの大会として、「アジアビーチゲームズ」と「アジアユースゲームズ」を追加している。

また、資料3-2は今回の改正イメージである。

これまでスポーツ賞は成績の良い順から、昨年羽生選手が対象となったスポーツ大賞、その次に栄光賞や優秀賞、奨励賞と、国際大会での成績から国内大会での成績によるものへ続くが、特に国際大会の中でオリンピック、パラリンピック、世界選手権といった大会と準ずるような大会についての規程がない。

こういった大会については、これまでも推薦があがっており、この審議会で協議の上、実際昨年でいうとセーリングの国際大会など、推薦された際にその場で協議し、結果的には栄光賞ということで位置づけていたが、それを取扱要領の中できちんと明記するということが今回提案した。

その場合、準ずる国際大会での1位を栄光賞、2位以下の入賞を優秀賞とし、そこで差をつけるように検討した。

これらについて議論いただき、この内容で進めてよいか審議いただきたい。

**平塚会長** 事務局から説明があったが、資料3-2の栄光賞に該当する国際大会に準ずる大会の成績により、栄光賞・優秀賞を新設することについて、いかがか。

**朝間委員** 今回新設する国際大会の入賞の基準は何位までを想定しているか。

**事務局** 運用細則の中で示す栄光賞に該当する国際大会の入賞基準と同じく、各大会の要項等で規程される入賞基準を用いることを想定している。

**平塚会長** ほかに意見がなければ、これを正案として、改正等の事務を進めていただきたいと思う。

予定されていた議事・報告事項は終了するが、そのほか委員の皆さんから何かあるか。

**中嶋委員** 要領第2条(4)アの(ウ)の協会は、「全国スポーツ障害者協会」ではなく、「日本スポーツ障害者協会」の誤りである。

**事務局** 関連資料について名称を訂正させていただく。

**加藤委員** この機会に質問する。栄光賞を連続して受賞している選手について。シニアの選手については、一度この審議会で協議した経緯はあるが、その他の選手についても同様に連続して同じ賞を受賞した場合の措置について、今後何か検討していくことは考えているか。

**事務局** 過去の議事録を確認したところ、同様の話が出ており平成21年度の審議会では、特別の基準を設けるのではなく、その都度審議会の中で検討いただくこととし、3年くらいを目安に上の賞へ該当させるなどの話があった。また、宮城マックスが三連覇した際には、奨励賞から優秀賞へ該当させるなど、明記するというよりは、議論の中で一つ上の賞に該当させる等の措置を行ってきた。

**加藤委員** せっかく、今回このような要領等改正の機会があるので、できれば運用細則に記載しておけばスムーズに検討事案として話し合いが出来るのではないか。  
気づかず見落とすことも考えられる。これまで成績を積み上げてきた選手が、結果として栄光賞止まりというのはいかがなものか。

**平塚会長** 奨励賞については、その上があるので、優秀賞に該当させることもしてきたが、栄光賞についてはその上となるとスポーツ大賞となるので、オリンピックレベルの成績で大賞とした選手と並べて、栄光賞を積み上げての大賞となると、どうなのかという話もある。その成績の内容も含め、次回の審議会でも過去の例などと一緒に参考資料や事務局としての検討事案を出してほしい。  
また、明記はしていないが、三回を目安に奨励賞から優秀賞へ該当させるといった申し合わせが過去にあったが、そういったものをきちんと明記するのも一つの手かとは思っている。

**加藤委員** もう一つ、栄光賞を積み上げて大賞にするというのは、たしかに難しいところもあると思うが、連続して受賞しているという功績を讃えられるように

表彰の際に説明を加えるなどのやり方もあると思う。

平塚会長 今回の意見について、事務局で検討し今後諮っていくこととしたいが、いかがか。

事務局 了解

平塚会長 ほかになにか意見等あるか。

二階堂委員 以前、審議会でスポーツコミッションの話題について提供いただいたが、その後どのような検討状況なのか教えてほしい。

事務局 昨年12月2回目の審議会で話題に挙げさせていただいた。  
その後関係団体等の検討を進めており、今年度中の立ち上げに向け準備を進めているところ。

具体的な構成団体については、仙台市、スポーツ施設を管理するスポーツ振興事業団、スポーツツーリズムという観点から観光コンベンション協会、またスポーツイベントを誘致する観点から体育協会などに加わっていただいて組織を構成し、来年度から本格的に活動を開始する予定で進めている。

対外的に公表できるのは、もう少し年末近くになるかと思うが、現在今年度中の立ち上げに向けて詰めているといった状況である。

平塚会長 その他、特になければ、本日の審議を終了とする。

(6) その他

(7) 閉会